

プラスチックごみを減らそう

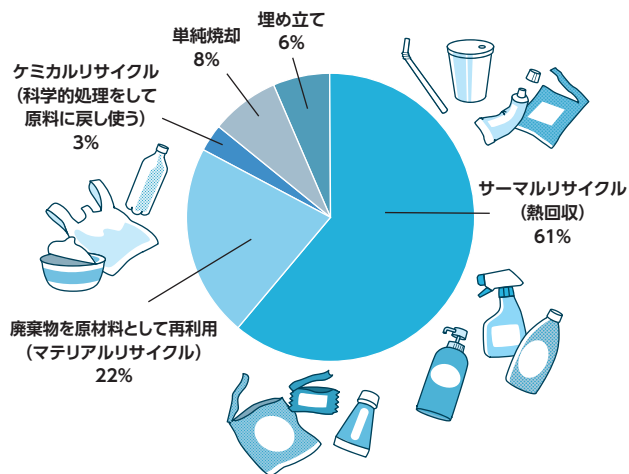
プラスチックごみの現状

今あなたが使っている生活用品に、プラスチック素材のものはどのくらいありますか？

軽くて丈夫で安価なため、プラスチックは生活に欠かせない素材となっています。その利便性から、大量に生産、消費、廃棄されるため、プラスチックごみによる環境汚染や、生産から廃棄の過程で発生するCO₂による地球温暖化、限りある石油資源の消費など、さまざまな問題が起こっています。

日本のプラスチックごみ排出量は約850万トン(2019年)、うち約40%が使い捨てプラスチック容器です。これは1人当たり年間32kgを排出しており、アメリカに次いで世界第2位の多さです。プラスチックごみの有効利用割合は約85%ですが、焼却して熱を回収するサーマルリサイクルが約60%を占めています。プラスチックの素材としての再生利用は約20%で、そのうちの40%は海外に輸出されています。

プラスチックごみの処分方法
(2019年 約850万トン)



出所：一般社団法人プラスチック資源利用協会
「2019年プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」

深刻な海洋汚染

プラスチックごみの海への流出は、毎年約800万トンです。現在1億5千万トンが海にあると推定されており、海洋生物や鳥が餌と間違えて捕食するなど、生物の生命を脅かしています。また紫外線などで劣化し5ミリ以下になったマイクロプラスチックを海洋生物が取り込み、食物連鎖を経て人間の体内にも存在すると考えられており、影響はわかり知れません。プラスチックは自然分解に長い時間がかかり、たとえばペットボトルで400年以上といわれています。このまま何も手を打たなければ、2050年には海の中のプラスチックごみの量は、海洋の魚の全重量を超えると推測されています。(エレン・マッカーサー財団の研究報告)



まずは“減らす”こと！

日本ではプラスチックを減らすための取組みとして、2020年、レジ袋が有料化され、プラスチックごみ減量の意識が高まっています。2021年6月には「プラスチック資源循環促進法」が成立しました。製品の設計から廃棄物処理までの資源循環などの取組みや、プラスチックの代替素材の開発が進んでいます。

私たち消費者は、日頃から「このプラスチックは必要か？代替できないか？」と意識し、プラスチックごみを減らすために行動することが求められています。

行動の例

- エコバックを持ち歩く
- お菓子は個包装のものを選ばない
- 使い捨て容器を減らす
- マイボトルやマイカトラリー(箸やフォーク)を携帯する
- 野菜は裸売りを選ぶ
- ボディソープをプラスチック容器不要の固形石けんにする

つかう責任を考えよう！

持続可能な社会には消費者の選択が重要なカギを握ります。持続可能な社会に貢献する商品を選ぶには何らかの情報が必要であり、マークがその情報の一つになるのではないのでしょうか。

商品についているマークには、どんな意味があるのでしょうか？よく見かける保健機能食品や容器分別などのマークの他に、エネルギー、森林保全、労働問題、自然環境を守るなど、持続可能な社会の実現を目的として付けられたマークがたくさんあります。これらのマークの一部について紹介します。



バイオマス
No.000000

バイオマスマーク

生物由来の資源(バイオマス)を利用した基準に適合した製品についているマークです。数字はバイオマス度(商品あたりのバイオマス配合重量%)を示しています。

商品:食器、ストロー、ラップ、レジ袋など



レインフォレスト・アライアンスマーク

森林や生物多様性を保護し、生産者の生活水準の向上や農園労働者の人権を守りながら、より持続可能な農法に従う認証農園産の原料を使用した製品であることを示すマークです。

商品:コーヒー、茶類、バナナなど



FSC®認証マーク

森林の環境や地域社会に配慮して作られた製品であることを示すマークです。

商品:トイレットペーパー、ティッシュペーパー、菓子箱、封筒、紙袋など



国際フェアトレード認証ラベル

国際フェアトレード認証ラベル

貧困のない社会のため、原料の生産から輸出入、加工、完成までの各工程で、持続可能な生産と公正な貿易が行われていることを証明するラベルです。

商品:コーヒー、紅茶、チョコレート、ナッツ類、サッカーボールなど



RSPO認証マーク

持続可能なパーム油由来原料を使用した、あるいはその生産に貢献した製品に付けられるマークです。

商品:石鹸、洗剤、食料品など



MSC(海のエコラベル)

水産資源と環境に配慮し適切に管理されたMSC認証を取得した漁業でとられた天然の水産物に付けられるラベルです。

商品:魚の切り身、認証水産物を使用した缶詰や冷凍食品などの加工品

STEP UP!

マークはひとつの目安にすぎません。このようなマークがついている背景を知ったうえで、私たち消費者がこうした商品の成り立ちを考え消費行動に反映させることは、未来の子どもたちの豊かな消費生活を守ることに繋がります。一人ひとりの力は小さくても、皆が力を合わせれば、持続可能な社会の構築への大きな原動力となるのです。

SDGsの17の目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- | | | |
|--------------------------|---------------------|-------------------|
| ① 貧困をなくそう | ② 飢餓をゼロに | ③ すべての人に健康と福祉を |
| ④ 質の高い教育をみんなに | ⑤ ジェンダー平等を実現しよう | ⑥ 安全な水とトイレを世界中に |
| ⑦ エネルギーをみんなに
そしてクリーンに | ⑧ 働きがいも経済成長も | ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう |
| ⑩ 人や国の不平等をなくそう | ⑪ 住み続けられるまちづくりを | ⑫ つくる責任つかう責任 |
| ⑬ 気候変動に具体的な対策を | ⑭ 海の豊かさを守ろう | ⑮ 陸の豊かさを守ろう |
| ⑯ 平和と公正をすべての人に | ⑰ パートナーシップで目標を達成しよう | |

SDGs(持続可能な開発目標)とは、

2015年9月、国連持続可能な開発サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」(以下、「2030アジェンダ」という)に記載されている2016年から2030年までの国際目標です。

2030アジェンダとは、

「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓い、17の持続可能な開発目標(SDGs)の達成を目指しています。

私たちの生活の中でも、目標に向けてできることがたくさんあります。私たち一人ひとりが、毎日の生活の中で実践していくことが、社会を変える大きな力になるのです。